# 紹介SSOR

第21回ＳＳＯＲ事務局

大鋳　史男・塩出　省吾

SSORは今から21年前の昭和40年に第1回が飛騨高山で開催され，途中1回の休み（昭和50年）をはさみ，今年8月に第21回目を迎えることになります．

SSOR開始に関する動きは昭和38年頃からあったようです．当時森村英典先生，小笠原暁先生，渡辺浩先生，関根智明先生達が全国的な若手中心の交流をもちたいと相談をされたようです．それ以前，すでにPSGという確率統計関係の若手研究者の会があり活動していたのですが，OR関係者とは問題意識も異なり，PSGではORをカバーできず，OR関係者でPSGのようなことを行ないたいという希望もあったようです．

SSOR開始の準備会は当時統数研の渡辺先生の部屋で行なわれ，その時にSSORという名称が決められました．“SSOR”というのは単なる記号と思った方がよく，それをいかに読むか，つまり，どのような意味を与えるかは人それぞれによって，また各回の事務局の意図によってさまざまに変わってもいいようです．たとえばSummer Seminar on O.R., Summer Symposium on O.R., Seasonal Symposium on O.R., さらには盛大にさわごう会 of O.R. などが考えられます．

SSORの中心は，その出発点からそうであったように，全国的な若手の交流と親睦にあります．今回この記事をまとめるにあたり数人の方々にインタヴューをしましたが，初期のSSORでは飲む，遊ぶ，ダベルはもちろんのこと，アダ名をつけたり，壁新聞を出し開催地のおいしいものの情報を提供したりと非常に生き生きとした雰囲気があったようです．それは参加校が小数であったこと，参加人数が比較的小数（？）であったからかもしれませんし，またORの志に燃えていたからかもしれません．各回のテーマ，開催地，参加人数は表1のとおりです．

第1回から第7回まではプレ・ゼミなるものが行なわれていました．1冊の本を決め，各章の担当校を決めSSOR当日それを順に紹介するといったものです．つまり『昼の部』はプレ・ゼミ＋種々の topics 紹介で，『夜の部』は飲む＋遊ぶ（麻雀，etc.）＋？で構成されていました．第8回以後はだいたいいくつかの特別講演と各種の40分前後の発表と，回によっては遠足などで構成されており，ミニ学会もしくはミニシンポジウム形式になっています．その中で第12回は『OR入門』というテーマですべてを依頼講演でまとめており，他とは違った特色を出しています．

第1回から第20回までを通し，よく遊びよく学びを地でいったような時もあり，またほとんどの人が遊びに出かけ聴衆が少なく（ほとんどおらず）講演者がカワイソーという時もあったようですが，たいがいにおいて『夜の部』は盛況であったし，若手の交流，親睦はうまくいっていたようです．実際，今回インタヴューをした人の中には，SSORではじめて知り合い，それ以後現在まで継続して付き合いが続いている人もいました．

SSORは次期OR学会を担ってゆくであろう若い人々にさまざまな意味で1つの場を提供するものであり，その意味で組織的にはOR学会とは独立したものとなっているし，また若い人々がもっと積極的になっていいように思えます．木村俊一氏（オペレーションズ・リサーチ，1982年11月号）が指摘しているように，特に学生の参加者がともすれば仲間内で固まってしまいがちになるのは非常に気になります．また企業からの参加人数が各回全体の約1/4弱という少なさであるのも気になります．大学，企業を問わずORにかかわっている多くの若い人々が集まり，はつらつとした雰囲気のもとでORの過去，現在，未来を語り合えるようなSSORを作ってゆくことが大きな課題であるように思われます．

さて今年開催の第21回SSORですが，南紀白浜で8月20日から8月23日まで3泊4日の予定で行なわれます．テーマ，企画は検討中ですが，今までのSSORを引き継ぎ，交流，親睦を図ってゆきたいと思っています．企業，大学にかかわらず多くの若い人々が参加されることを希望しています．また希望，意見などがある方は遠慮なく下記までご連絡ください．お待ちしています．

最後になりましたが，この紹介を書くにあたり数人の方々にインタヴューをさせていただきました．突然のインタヴューにもかかわらず気軽に応じていただき，感謝

おおい　ふみお，しおで　しょうご　大阪大学　工学部



© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

表 1

| 回 | 開催地 | テーマ | 人数 | プレ・ゼミに使用した本，その他 |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 高山 | 数理計画 | 34 | Zoutendjik, "Method of Feasible Directions" |
| 2 | 六甲，有馬 | ネットワーク | 44 | Ford, Fulkerson, "Flows in Networks" |
| 3 | 山中湖 | 確率過程，他 | 60 | Prabhu, "Stochastic Processes" |
| 4 | 本栖湖 | 確率過程，他 | 81 | Kemeny, Snell & Knapp, "Denumerable Markov Chain" |
| 5 | 生駒 | 信頼性 | 81 | Barlow & Proschan, "Mathematical Theory of Reliability" |
| 6 | 清里 | 組合せ理論 | 93 | Hall, "Combinatorial Theory" |
| 7 | 吉野 | 最適化 | 86 | Luenbargar, "Optimization by Vector Space Methods" |
| 8 | 霧ヶ峰 | | 70 | 河田龍夫先生特別講演 |
| 9 | 保科温泉 | | 89 | 小野勝次先生特別講演，ワークショップ形式 |
| 10 | 春日温泉 | | 64 | 予稿集を用意 |
| 11 | 赤倉 | 多目的計画，他 | 72 | コーディネーターによるミニシンポジウム形式 |
| 12 | 兵庫県勤労者いこいの村はりま | マトロイド，他 | 82 | 同上 |
| 13 | 愛知県三ケ根山 | 信頼性理論における最適問題 | 78 | 本告光男先生，市川朗先生特別講演 |
| 14 | 茨木県土浦市 | 政策科学，他 | 82 | 宍戸駿太郎先生，小島政和先生特別講演 |
| 15 | 伊豆修善寺 | 情報科学，他 | 58 | 高橋磐郎先生特別講演 |
| 16 | 近江八幡 | 最適化をめぐって | 72 | 三根久先生特別講演 |
| 17 | 信州，飯綱高原 | ＯＲ入門 | 65 | 森村英典先生特別講演，すべて依頼講演でまとめる．この回以後予稿集が定着する． |
| 18 | 大山 | 数理計画と信頼性 | 68 | 権藤元先生特別講演 |
| 19 | 宮城県鳴子町 | 若い人による総合報告 | 49 | 森清堯先生，山本芳嗣先生，高橋幸雄先生特別講演 |
| 20 | 長野県立科町 | | 68 | 柳井浩先生，鈴木久敏先生講演 |

（注） 第14，18回の人数は参加者名簿によりました．それら以外は収支報告によりました．

しています．ここにお礼申しあげます．

大阪大学工学部応用物理学科　大鋳史男，塩出省吾
〒565　大阪府吹田市山田丘２番１号
Tel. 06—877—5111　ex.4674

## 次号予告

**特集　マーケティングの新しいアプローチ**

広告とＯＲ　林　知己夫
消費者行動の測定分析法と媒体選択モデル　志津野　知　文
新製品開発　門　山　允
重複流通チャネルにおける価格政策　岩　澤　孝　雄
最適制御を使った広告予算意思決定　笹　井　均
広告費の最適配分　河　原　靖

**連載　パソコンによるＯＲ（5）**

信頼性のグラフィック表示　尾　崎　俊　治

**手法紹介**

指数法について　一　森　哲　男



© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．